

## ＊体験活動の新たな展開として

これまで、県教育委員会では、小学校で職場見学、中学校で職場体験、高校でインターンシップ(就業体験)を推進してきた。今後は、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、各学校が主体的に取り組む地域や企業等と連携した体験活動の実施が重要なことから、それぞれの地域や生徒の特性を踏まえた、次のような多様な体験活動の展開も考えられる。

### <多様な体験活動の例>

#### ・アカデミック・インターンシップ

研究者や大学等の卒業が前提となる資格を要する職業を含めた就業体験(研究や実習等の体験等)

#### ・PBL(プロジェクト型学習、問題発見解決型学習)

企業等と連携し、出されたミッションや問題の解決に向けてチームで主体的に活動し、目標達成を目指す過程での学びを得る実践的学習法

#### ・ジョブシャドウイング

働く大人(メンター)に影のように寄り添い、観察するプログラム

## ＊特別支援学校におけるキャリア教育につながる体験活動の充実

特別支援学校においても、特別活動を要とした小中学校及び高等学校に準じた指導に加え、児童生徒がそれぞれの障害の状態や発達の段階等に応じ、「主体的に自己の力を可能な限り発揮し、よりよく生きることを学ぶ」自立活動での指導を含めて学校教育活動全体で取り組むことが重要である。

小学部では、生活科の「基本的生活習慣」や「人との関わり」、「手伝い・仕事」等の教科の内容等を指導の中心に据え、日常的で具体的な活動や体験を通して必要な資質・能力を育成している。また、中学部では、小学部で育成した資質・能力をもとに将来の生活や社会、職業をより意識できるよう職場見学や校内での実習等も行いながら、必要な資質・能力を育成している。その上で高等部では、卒業後の具体的な生活や就労を見据え、校内実習や校外での就業体験をととして、生徒が、見通しをもって卒業後の生活が送ることができるよう、必要な資質・能力を育成している。

また、特色ある取組として、キャリアを見据えた、小学部、中学部、高等部合同で定期的に取り組む活動を設定している学校もあり、活動を共にすることで、中高等部の生徒がロールモデルとなり、小学部段階では「なりたい自分」を意識することにつながり、中高等部の生徒は自己肯定感を高め、一人一人のキャリア形成と自己実現の機会となっている。

特別支援学校のほとんどは、小中高等部が設置されていることから、その特色を十分に活かし、つながりのあるキャリア教育を目指すことが重要である。